

竹原議員（自民議連）

令和4年12月13日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）高校生の地域交流促進による地域共創について

学びの変革の一環として取り組んでいる、総合的な探究の時間等における課題発見・解決学習の推進は、社会に出てから真に役立つ体験となるものであることから、是非、県立高等学校の地域とのつながりを重視したこの取組を継続、発展してもらいたいと考えるが、教育長の所見を伺う。

（答）

県教育委員会では、研究指定校事業や全県立高等学校を対象とした研修を実施し、総合的な探究の時間において、生徒が自己の在り方、生き方を考えながら、地域や学校の実態などに応じた探究課題を設定し、その解決に向けた様々な学習活動が展開できるよう取り組んでいるところでございます。

例えば、呉宮原高等学校では「屋根のない学び舎」プロジェクトとして呉市でのフィールドワークを行い、地域への提言を考える取組を、大崎海星高等学校では、地域コーディネーターと連携して農業・漁業・観光・造船など地域の諸産業や地元企業の抱える課題を解決する取組を行うなど、生徒が地域に参画して活性化を図っている事例がございます。

こうした取組などにより、研究指定校18校におきましては、生徒に対するアンケート結果で、探究的な学びを通して自分自身に資質・能力が身に付いたと実感している割合が増えているといった状況となっております。

今後も、指定校事業によるカリキュラム開発や研修などの充実を図り、各学校が課題発見・解決学習を推進することを通して、生徒一人一人に応じた探究的な学びを実現していくとともに、生徒が自立した学習者として自己の将来のイメージを持ち、意欲を持って学びに向かうことができるよう支援してまいります。